

情報通信審議会 情報通信技術分科会 産学官連携強化委員会
重点課題WG（第4回）議事概要

1 日 時 平成21年12月21日（月） 13時30分～15時10分

2 場 所 総務省10階 共用10階会議室

3 出席者（敬称略）

構成員

森川博之（主任）、伊藤崇之、宇野嘉修、冲中秀夫（代理：田中寛）、勝部泰弘、加納敏行、木下進、関口潔、谷口浩一、富永昌彦、西村信治、端山聡、森田温（代理：丹野興一）、横井正紀（代理：中林優介）

事務局

奥英之（技術政策課長）、山内智生（同課研究推進室長）、藤田和重（同課企画官）、杵浦維勝（同課課長補佐）、藤井信英（同課課長補佐）、他

4 議事要旨

（1）社会ニーズにもとづく研究開発課題の整理の進め方について

事務局より、重-4-1、重-4-2及び重-4-3に沿って、研究開発課題の整理に関する主な意見及び今後の整理（案）について説明があった。

（2）ディスカッション

（1）の説明を踏まえ、ここよりディスカッションとなった。主な議論は以下のとおり。

勝部構成員：「資源・環境」では主に電力にフォーカスしているようだが、水、食料も資源に含まれるのではないか。

谷口構成員：資源の探査も関係すると思う。また「3-1 ICT活用による競争力強化」とあるが、ICTそのものの競争力強化もあるのではないか。

富永構成員：最終的には日本でできたものを世界で通用するものにしなければならない。当然ICT自身の国際競争力強化も必要であり、ICT技術によるソリューションの国際競争力強化も必要で、さらに競争力だけではなく協調力も必要である。

加納構成員：ICTによって、社会全体の非電気エネルギー消費を電気エネルギー消費に誘導するのも一つの考え方かと思う。

宇野構成員：「2-3 健康長寿」に書かれている内容は、マイナスをプラスにするものが多い。アクティブシニアをよりアクティブにするサービスのような、前向きなものも必要ではないか。

森川主任：重-4-2にある12個の社会ニーズは、言葉がありきたりなので、新しい言葉で表現してはどうか。

伊藤構成員：「2-5 コミュニケーション手段の多様化」は社会ニーズというより、手段のような印象を受ける。別のよい言葉があればよいのだが。

田中構成員代理：「資源・環境」について分類的にはきれいなのだが、今後日本が資源に頼らない社会を目指すという戦略性は見えない。資源のない国として国際競争力強化をどうすべきかというところが出てくると、より納得性のある言葉になる。

西村構成員：「1-2 ICT活用による資源使用・温室効果ガス排出の削減」にICT機器の消費電力削減とあるが、機器だけでなくICTの使い方そのものを変えるということもある。ICTそのものを考える時に、ハコの構成ありきで考えるのはどうか。また「2-1 安全で快適な電子的サービスの利用」とあるが、電子的サービスとはどのような意味か。

事務局：特定のサービスがイメージされない言葉にしたもので、特別の意味はない。

富永構成員：ここに挙げられた12個の社会ニーズとはレベルが違うかもしれないが、知的財産立国、科学技術立国という社会ニーズにどう対応するかという観点はどこかに書ければよい。特に昨今、科学技術に対する国民の理解が得られていないと言わ

れており、しっかり説明していくべきである。また、例えば医療崩壊への対応や理系離れへの対応など、緊迫したニーズへICTが活用できないのかということも書ければよい。

- 森川主任 : 喫緊の課題は雇用かと思う。「3-3 雇用機会の拡大」で雇用全体をカバーするのか。
- 事務局 : 「3-3 雇用機会の拡大」はどちらかと言うと労働参画する側の能力を高めるという観点であり、「3-2 新産業のシーズ・プラットフォームの創出」では与えられるチャンスを増やすという観点もあるかと思う。
- 谷口構成員 : 国際協力というキーワードはどこに入るのだろうか。
- 事務局 : 国際協力というキーワードからは技術的課題を導き出しにくく、社会ニーズのレベルでは入れていない。どこか具体的な機能・サービスに入れるのかと思う。ここでの議論は何をするかの話であり、どのようにするかという話は推進戦略WGにかかってくる。どちらに入れた方がよいのかは後で判断したい。
- 森川主任 : 技術といっても日本向けの技術とアジア向けの技術は違うのだろうか。違うのであれば、別で入れるのだろうか。
- 事務局 : 技術のベースが違うのか、カスタマイズの範囲なのかによって違う。カスタマイズの範囲であれば、ベースで共通のものを作ることによってよいかと思う。日本とアジアのニーズが全く違っていて大きい市場があるのなら入れてもよいかもしれない。
- 加納構成員 : 社会的ニーズのプライオリティの違いがあると思う。日本のような先進国に必要なニーズと、アジア諸国に必要なニーズは違う。
- 森川主任 : アジアでの実証実験なども重点課題WGの議論に入っていればよいのだが。
- 勝部構成員 : このWGでは何の技術を新しく育てるかという議論をしている。途上国では技術の利活用という側面が強く、ビジネス的にはすごく重要だと思うが、このWGのメインピックではないかもしれない。
- 森川主任 : では推進戦略WGの方で議論してもらえばよいのか。
- 事務局 : このWGでの議論は推進戦略WGにも報告する。
- 谷口構成員 : このWGのキーワードである産学官連携を進める分野として、外国での技術利用を支援するという話は含まれるかと思う。現地（途上国）で技術の活用を支援するという事は、先進国の国策として重要なポイント。先進的な技術項目を検討する方に軸足を置くのか、あるいはそれを含めた展開・貢献という所に軸足を置くのかについて、このWGでの検討が必要ではないか。
- 伊藤構成員 : 地デジが南米で受け入れられたのは、ハイビジョンというより安い移動体受信機に注目されたというのが主な理由である。どう転ぶのか予測できないが、そのような事例もある。
- 関口構成員 : 現在標準化を行う研究開発は、開発段階からグローバル市場を見据えているのがほとんどである。
- 加納構成員 : 新しいICTの研究開発が必須だと思う。重-4-3の中には既存の技術の組み合わせでできるものもあれば、新しい技術の研究開発もあり、プライオリティ付けが必要である。それは知的財産立国を維持していくための必須条件でもある。
- 森川主任 : 参考2の技術課題には今やっている課題もあるが、特にこれからやらなければならない新しい技術のキーワードをあげて欲しい。まとめ方としては細かい課題より大きく括った課題になるのかもしれない。

ここで事務局より、資料4-4に沿って、技術課題のまとめ方のイメージについて説明があった。

- 森川主任 : 重-4-4のイメージ図を見て思ったのだが、技術の名称が従来からある名称だと斬新さが無い。「~をすることで~ができる技術」などはどうだろうか。
- 伊藤構成員 : 入り口が社会ニーズであったにもかかわらず、技術課題ごとのパワーポイントになると今までと何も変わらないのではないか。ある社会ニーズを満足させるためにこれとこれを組み合わせると言うイメージが必要なのではないか。
- 谷口構成員 : 技術課題を整理する際には、どういう視点でもってその技術をやめるのかやらないのか、優先順位をどう決めるのかなど、評価の軸が必要だと思う。また、各社技

- 術課題を並べたと思うが、この技術をやるとこれができるなど、利用に関するイメージがあると思う。ある程度技術はグルーピングされていくのではないか。
- 森川主任 : 純粋な基礎研究はこれまでのテーマの延長線上でよいが、成熟しつつあるようなテーマについては出口指向のテーマを設定してはどうだろうか。それは総務省的にあり得るのか。
- 事務局 : 何の課題をやることが明確になっていれば、十分あり得ると思う。
- 端山構成員 : 社会ニーズを挙げればいくらか出てくる気がするが、あくまでこのWGの知見で選んだということが言えるようにすべき。「2-5 コミュニケーション手段の多様化」はニーズっぽくないので、重-4-1にあるように「地域・家族のコミュニケーション活性化」などの方がよいのではないか。また重-4-2においてICTの貢献が説明できるかとあるが、ICTでできないものがあるとしてもよい。それくらい幅広く英知を集めて検討してきたと言う方が国民に理解してもらえる。また、個別の技術には現在やっている部分とこれからやるべき部分が網羅されており、その中で産学官が連携してやるべき部分はここだと論理的にアピールできるようなストーリーを作る必要がある。
- 勝部構成員 : 第1回でも出た話だが、ICTが主役である部分とそうでない部分がある。ICTの位置づけを明確にすべき。

(3) その他

今回の資料を構成員に送付し、修正意見及び個別の技術課題を整理の仕方についての意見をいただくこととなった。

以上